

### Ⅲ 資 本 等

#### 1 資本金の状況

機構の資本金の状況は、次のとおりである。

区 分	17 年度期首	増減額	17 年度期末
畜産勘定	29,966,262,336 円	—	29,966,262,336 円
野菜勘定	293,139,653 円	—	293,139,653 円
生糸勘定	5,030,300,000 円	—	5,030,300,000 円
肉用子牛勘定	328,562,593 円	—	328,562,593 円
債務保証勘定	371,650,899 円	—	371,650,899 円
合 計	35,989,915,481 円	—	35,989,915,481 円

#### 2 財務の状況

##### (1) 会計処理

機構は、法人の財政状態及び運営状況を明らかにするため、独立行政法人会計基準に沿った会計処理を行っており、決算に係る財務諸表は、監事及び会計監査人による監査を受け、農林水産大臣から承認された後、官報に公告し、かつ、各事務所において一般の閲覧に供している。

機構の会計は、業務ごとに経理を区分し、畜産勘定、野菜勘定、砂糖勘定、生糸勘定、補給金等勘定、肉用子牛勘定及び債務保証勘定を設けて整理している。

機構の各種業務を執行した結果、損益計算において利益が生じたときは、前事業年度から繰り越した損失をうめ、なお残余があるときは、その残余の額は、当該勘定において積立金として整理することになっている。一方、損益計算において損失が生じたときは、積立金を減額して整理し、なお不足があるときは、その不足額は、繰越欠損金として整理することになっている。

また、補給金等勘定においては、損益計算において利益が生じたときは、前事業年度から繰り越した損失をうめ、なお残余があるときは、農林水産大臣の承認を受けて残余の額の100分の80以内の額を畜産勘定の畜産業振興資金に繰り入れることができることになっている。

##### (2) 損益等

###### ア 畜産勘定

当勘定においては、指定食肉の売買保管等業務、指定乳製品、指定食肉又は鶏卵等の調整保管事業に対する補助業務、学校給食用牛乳供給事業に対する補助業務及び畜産業振興事業に対する補助業務、畜産物に関する情報収集提供業務、畜産関係団体に対する出資に係る株式又は持分の管理業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、調整資金戻入益501億3,794万3千円、畜産業振興資金戻入益69億4,121万6千円、運営費交付金収益4億4,061万9千円、過年度補助事業費返還金124億6,570万4千円、運用利息、雑益等10億8,856万4千円を加えた710億7,404万6千円で、費用が、学校給食用牛乳供給事業費15億1,108万5千円、畜産業振興事業費678億8,684万7千円、畜産物に関する情報収集提供事業費3億5,883万3千円、これらに補助業務に係る業務費及び業務委託費、並びに当勘定の一般管理費、関係会社株式評価損等14億2,777万8千円を加えた711億8,454万4千円となったことから、1億1,049万8千円の当期損失を計上した。

この結果、当期損失は積立金の取崩しにより処理し、次期繰越積立金は41億9,362万1千円となった。なお、畜産業振興事業は、環境対策やBSE対策等37項目の事業に対して補助金が交付された。

また、調整資金の収支は、収入は、政府からの交付金952億129万3千円、支出は、畜産業振興事業費に496億9,304万3千円、畜産物の価格安定等の事業費に3億4,149万4千円、一般管理費に1億340万6千円であった。

一方、畜産業振興資金の収支は、収入は、政府からの交付金50億7,033万8千円、運用利息、雑益、過年度補助事業費返還金、調整資金運用利息等の受入が131億5,870万4千円、支出は、学校給食用牛乳供給事業費に15億1,108万5千円、畜産業振興事業費に182億8,836万6千円の補助を行ったほか、これらに係る業務費、業務委託費、一般管理費、関係会社評価損等が3億46万9千円であった。

#### イ 野菜勘定

当勘定においては、指定野菜価格安定対策事業、契約指定野菜安定供給事業、特定野菜等供給産地育成価格差補助助成事業、重要野菜等緊急需給調整事業、野菜構造改革促進特別対策事業、野菜流通消費合理化推進事業等に係る経理を行っている。

これらの費用のうち、指定野菜価格安定対策事業等の交付金及び助成金は、造成した資金から受け入れた収益で賄うこと等とし、それ以外の業務費、一般管理費等の費用については、資金の運用利息等の収益で賄っている。

当勘定の損益は、収益が運用利息等収入15億6,937万7千円で、費用が業務費、一般管理費等15億6,937万7千円であったため、当期損益は0円となった。

当期損益が発生しなかったのは、野菜生産出荷安定資金又は野菜農業振興資金の運用によって生じた利子その他の当該資金の運用又は使用に伴い生ずる収入については、人件費、事務費その他の業務費に充てるほか、当該資金に充てることができることとなっており、野菜勘定で生じた受取利息等の収益のうち、業務費、一般管理費等必要な経費を控除した差額6億8,942万1千円を野菜生産出荷安定資金及び野菜農業振興資金に繰り入れたためである。

#### ウ 砂糖勘定

当勘定においては、価格調整措置の実施に必要な輸入指定糖の買入・売戻業務、異性化糖等の買入・売戻業務及び国内産糖の交付金交付業務と砂糖生産振興等事業の業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益については、糖価調整事業収入567億8,302万1千円、その内訳は、指定糖調整金収入504億8,726万6千円（対象数量1,325千トン）、異性化糖等調整金収入62億9,575万5千円（対象数量801千トン）であり、国内産糖調整交付金戻入益82億9,502万7千円、運営費交付金収益12億5,607万8千円、砂糖生産振興資金戻入益79億5,972万4千円、過年度補助事業費返還金等4億9,890万4千円、受取利息2億2,695万1千円、雑益555万4千円を加えた750億2,525万9千円であった。

費用については、糖価調整事業費754億3,814万円、その内訳は、てん菜糖474億8,704万5千円

(交付対象数量618千トン)、甘しや糖・鹿児島123億5,139万1千円(交付対象数量63千トン)及び甘しや糖・沖縄151億9,335万9千円(交付対象数量78千トン)、国内産糖検査委託費1億4,041万7千円、業務管理費等2億6,592万8千円であり、砂糖生産振興等事業費89億6,126万8千円、一般管理費等8億930万4千円、支払利息等3億7,645万2千円を加えた855億8,516万4千円となったことから、105億5,990万5千円の当期損失を計上した。

この結果、前期繰越欠損金736億3,501万8千円と合わせて、次期繰越欠損金は841億9,492万3千円となった。

また、砂糖生産振興資金は、16年度末残高598億4,551万6千円に当期の砂糖生産振興資金受取利息等7億1,153万1千円を加え、砂糖生産振興等事業費等85億9,285万4千円及び情報提供収集事業費7,840万1千円を合わせた86億7,125万5千円を取崩した結果、当期末残高は518億8,579万2千円となった。

## エ 生糸勘定

当勘定においては、需給調整措置の実施に必要な生糸売買事業と、繭糸生産流通合理化等事業の業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益については、輸入生糸売買収入2億9,884万2千円(対象数量24,552俵)、運営費交付金収益5,773万3千円、補助金等収益20億9,331万5千円、蚕糸業振興資金戻入益2億9,069万8千円、財務収益4,191万7千円、雑益148万8千円を加えた27億8,399万3千円であった。

費用については、生糸売買事業費2,138万4千円、繭糸生産流通合理化等事業費11億3,782万2千円、その他業務経費2,426万6千円、一般管理費3,463万4千円、支払利息5,043万2千円を加えた12億6,853万8千円となったことから、15億1,545万6千円の当期利益を計上した。

この結果、前期繰越欠損金116億5,466万7千円に当期利益を充当し、次期繰越欠損金は101億3,921万1千円となった。

また、蚕糸業振興資金は、16年度末残高9億3,758万7千円に輸入生糸売買収入2億9,884万2千円、蚕糸業経営安定対策資金戻入益5億2,731万5千円及び蚕糸業振興資金受取利息15万8千円を合わせた8億2,631万5千円を加え、繭糸生産流通合理化等事業費11億1,683万4千円及び輸入事務費戻入17万9千円で11億1,701万3千円を取り崩した結果、当期末残高は6億4,688万9千円となった。

## オ 補給金等勘定

当勘定においては、加工原料乳についての生産者補給交付金交付業務及び輸入乳製品の売買業務に係る経理を行っている。

生産者補給交付金交付業務については、政府から生産者補給交付金の財源192億9,256万円を受け入れ、交付対象数量205万トンについて213億2千万円の生産者補給交付金を交付した。

次に、輸入乳製品の売買業務については、バター4,422トン、ホエイSBS 4,465トン及びTE分として310トンの買入れを行い、年度内に全量の売渡しを行った。

これらの結果、当勘定の損益は、収益が、指定生乳生産者団体補給交付金戻入益192億9,256万円、輸入乳製品売渡収入50億8,975万9千円に運用利息、雑益等2,385万2千円を加えた244億617万1

千円で、費用が、加工原料乳生産者補給交付金交付事業費213億5,558万9千円（事務費を含む）、輸入乳製品売買事業費37億4,084万8千円に一般管理費等3億793万4千円を加えた254億437万1千円となったことから、9億9,819万9千円の当期損失となった。

この結果、当期損失は積立金の取崩しにより処理し、次期繰越積立金は253億5,552万8千円となった。

#### カ 肉用子牛勘定

当勘定においては、肉用子牛についての生産者補給交付金交付業務に係る経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、運営費交付金収益1億8,117万9千円、過年度補助事業費返還金145億8,388万4千円、運用利息及び雑益454万8千円を加えた147億6,961万1千円で、費用が、生産者補給交付金61億3,825万4千円、生産者積立助成金45億560万7千円、業務費及び業務委託費、一般管理費等18億760万5千円を加えた124億5,146万5千円となったことから、23億1,814万6千円の当期利益となった。

この結果、次期繰越積立金は、積立金377万2千円と合わせて23億2,191万8千円となった。

#### キ 債務保証勘定

当勘定においては、乳業者等に対する求償権の管理業務に係る経理を行っている。

求償権の期首残高は、2者に対する2億7,921万9千円であったが、160万2千円を回収したことから、期末残高は2者に対する2億7,761万7千円となった。

当勘定の損益は、収益が、運用利息、貸倒引当金戻入益、雑益等を加えた340万5千円で、費用が、求償権回収業務費及び一般管理費等155万6千円となったことから、184万9千円の当期利益となった。

この結果、次期繰越積立金は、積立金609万6千円と合わせて794万5千円となった。